

安全に資する科学技術の意義・目標・方針等(素案)【概要版】

【検討の背景】

- 近年の脅威に関する情勢変化に鑑み、第3期科学技術基本計画策定のための議論に資するため、「安全に資する科学技術の意義、目標、方針等」について明確化する。

【安全に資する科学技術の意義】

- (1) 国民生活の安全確保(安全教育の徹底、罰則強化、要員確保等の補完・補強として、科学技術の有効活用が強く期待される)
- (2) 我が国の総合的な安全保障への貢献(我が国の安全に資する科学技術は、総合的な幅広い視点から極めて重要である)
- (3) 国際社会の安全確保と我が国の地位の向上への貢献(通商国家である我が国こそ、安全に資する科学技術を積極的に推進すべき)

【安全に資する科学技術の目標】

- (1) 国の安全確保
 - 我が国の総合的な安全保障に資するための基幹的な科学技術の研究開発に関する包括的な産学官の連携体制の構築
 - 世界的なNBC兵器の拡散とこれらを使用したテロリズムや我が国周辺の不法行為等に対処するための、監視・検知・追跡技術、各種センサー技術、被害予測技術等の向上。
- (2) 社会・経済の安全確保
 - 高度情報ネットワーク化された社会におけるサイバーテロやサイバー犯罪に対処するための、ネットワークの信頼性技術や迅速な攻撃対処技術、高度暗号化技術等の向上。
 - 大規模自然災害に対する減災対策技術、事後対応技術等の向上
 - 脆弱な都市空間における自然災害、大規模人為災害の被害予測・軽減技術等の向上。
- (3) 個人生活の安全確保
 - 新興・再興感染症等の突発的な発生に対処するための、被害の予測技術、迅速な予測・診断・治療技術等の向上。
 - 組織的な凶悪犯罪や新しいタイプの犯罪に対処するための、遠隔監視技術、各種センサー技術、生体認証技術等の向上。

【安全に資する科学技術の方針】

- (1) 国の持続的発展基盤としての視点(現時点で、我が国が国際的に比較優位な安全に資する科学技術は、国際標準化を念頭に、国際競争力の確立に向け積極的に推進)
- (2) 人材育成の視点(深刻な人材不足に対応するため、短・中・長期的視点から人材確保のための方策を構築)
- (3) 制度設計の視点
 - ① シーズとニーズの対応(シーズからニーズへの連続的な流れを強化し、社会に貢献させるための連携手法の構築)
 - ② 府省庁連携の構築(「科学技術連携施策群」等を積極的に活用し、更なる推進を図る)
 - ③ 危機管理体制の強化(安全に資する科学技術を最大限活かせる、国の体制の強化)
- (4) 国民理解の増進の視点(科学技術の持つ両面性への配慮も含めた安全に資する科学技術の必要性や重要性を、テレビ等のビジュアルな媒体をフル活用し、積極的にアピール)

【安全PTにおける具体的なアウトプットについて】

(1) 時間軸の視点

検討する各分野は、時間軸の取り方や脅威の予測によって、注力点や論点、アウトプット等がそれぞれ異なるため、当面検討すべき各分野について論点の主軸をどこに置くか、またアウトプットをどの様に想定すべきか明確化。

(2) 脅威の特定から論点整理まで

その上で、ある程度予測の可能な脅威については、抑止、初動対応、事後対応それぞれの観点から脅威を低減させるための手段と、その手段を達成し得る様々な科学技術の選定を行い、それらのベースとなる基幹技術を明確化。

これら基幹技術を継続的に発展させるための方策と、それらを妨げる要因分析を実施し、論点整理を行う。

(3) 技術戦略の策定

国民に対し分かりやすい記述(ある程度の数値目標や、明記された期限等)で、技術戦略(ロードマップ等)を提示。

脅威の特定から技術戦略策定までの検討の流れのイメージ

